



“よねやま”から広がる新しい世界 ②③

# 言葉を超えて、未来へとつなぐ



高岡 R C  
(第 2610 地区 富山県)

カウンセラー  
室崎 靖さん

## 日本語が話せなくても……

オレナの来日直前、彼女の母国ウクライナではロシアがクリミア半島に侵攻。国内情勢の悪化に、僕は不安を募らせていました。そして2014年4月、寒さの残る小松空港に現れた小柄なオレナを見て、「よくぞ、無事に来てくれた」と胸をなで下ろしたのを覚えています。

彼女は来日時、日本語が話せませんでした。僕が米山カウンセラーになったのはこれが初めてですが、10人近い青少年交換学生のカウンセラーを経験しており、僕自身もクラブも、特に身構えることはありませんでした。青少年交換学生より年齢が上である分、むしろ安心していたくらいです。オレナは英語が堪能で、カタコトでも英語ができる会員は英語で会話し、1年もたつと、オレナも徐々に日本語が話せるようになって、どの会員とも楽しくコミュニケーションができるようになりました。

一つ言えることは、言葉は大切ではあるが、交流において必須ではない、ということです。彼女にとって、僕たちの好き勝手な日本語や例会での卓話は理解できなかったらと思います。しかし、クラブ行事に誘うと毎回「ぜひ参加したいです!」と即答するのです。これは、今までの米山奨学生にはなかったことでした。必然的に会員と過ごす時間が多くなり、会員にも交流の意義、米山記念奨学事業への理解が一層深まったように思います。だからこそ、オレナが2年間の奨学期間を終えた後、研究を続けさせるべく、クラブが奨学金の半額を出して行う1年間の延長支援にクラブ全員が同意したのです。

## 海外の若者を支える奨学金とその意義

海外応募者対象奨学金制度は、従来の米山記念奨学金とは異なり、日本へ留学予定の学生が、来日前に海外か

ら応募できる予約型の奨学金です。オレナが採用された当時、わがクラブの若野恒彦会員が地区米山記念奨学委員長を務めており、「日本語が話せなくても問題ない。せつかく日本で学びたいと願う留学生をウエルカムしないなんて、それはロータリーではありませんよ!」と、熱弁をふるったことを覚えています。

確かにリスクもあるでしょう。書類一つで、会ったこともない外国人を採用するのですから。しかし、自分の力で日本の奨学金を見つけだし、大学・研究室を探し、入学手続きをする。インターネットが発達した現代とはいえ、相当な行動力と熱意がなければ成し得ないことです。普段は控えめで、奥ゆかしさを感じさせるオレナですが、大きなチャレンジ精神を内に秘めているのだと思います。日本に来る留学生の多くは、アジア出身者です。そうした状況にある中、より多くの国・地域へと裾野を広げ、素晴らしい人材に日本を学んでもらう好機として、この制度の価値は大きいと思うのです。

オレナはこのたび、(独)日本学術振興会の特別研究員という非常に価値ある研究奨励金を得て、3年間にわたった米山奨学生を卒業します。指導教官である佐藤純氏の尽力も大きかったと思います。彼女はわがクラブの希望であり、誇りです。われわれはこれまでと同様に、オレナの未来をサポートしていきたいと思ひますし、僕は今後もずっと彼女のカウンセラーでいるつもりです。彼女には、ノーベル賞が受賞できるほどの研究成果を残してほしい。果たして受賞までに何人の会員が生きているかはわかりませんが、受賞後の最初の凱旋講演を高岡市で行ってくれる日を、会員全員が待ち望んでいます。



送別会で、高岡 R C のバンドとともに

米山記念奨学金プログラムの一つ「海外応募者対象奨学金」をご存じですか？ この奨学金は、来日前に海外から個人応募ができる制度です。奨学金が約束されることで安心して来日でき、多様な国と地域から奨学生を採用できるというメリットがあります。このプログラムで採用されたウクライナ出身の米山学友、オレナ・トゥルシュさんは日本語が話せず来日。世話クラブの高岡ロータリークラブでの交流は、うまくいったのでしょうか。



米山学友  
オレナ・トゥルシュさん

出身：ウクライナ  
奨学期間：2014 - 17  
学校名：金沢大学大学院

### おとぎ話のような日本へ

着物姿の美しい芸者、侍や忍者……。本や映画で知った日本はとても魅力的でした。本当に日本人は感情を出さず、俳句で気持ちを表現するのか？ 休みなく働くのか？ 電車は正確にやってくるのか？ おとぎ話のようなイメージを描いていたにすぎませんが、私は心から日本の文化に触れてみたかったです。もちろん、日本の高い科学水準も魅力でした。

世界中の奨学金を検索できるウェブサイトで見つけました。私は当時、イヴァンフランコ国立大学の博士課程に在籍し、ショウジョウバエを使って脳の神経変性のメカニズムを解明する研究をしていましたが、金沢大学にある佐藤純研究室は類似分野で最先端の研究をしているだけでなく、日本有数のレーザー顕微鏡や実験装置があり、しかも英語での研究が可能でした。母国の教育制度と飛び級進学のため、私の年齢では日本の博士課程に進む資格がなかったのですが、半年間研究生として学んだ後、幸運にも医学系博士課程への入学が許可されました。大学院で研究

を続け、昨年はアメリカで開催された世界最大の遺伝学会で、研究成果を発表することもできました。

### 私の誓い、ロータリアンへの願い

カウンセラーの室崎さんは、日本文化や日本人の考え方、「KY（空気が読めない）」の意味に至るまで、本当に多くのことを教えてくれました。室崎さんがいなければ、クラブの皆さんと適切にコミュニケーションを取ることは難しかったと思います。ロータリーの使命を学び、他者を尊重するロータリアンに出会いました。高岡ロータリークラブでのたくさんの経験、そのすべてが心に残っています。私の日本語を辛抱強く聞き、欠点を受け入れ、温かい言葉をかけてくれた皆さん。私はずっと、高岡と日本に温かい気持ちを持ち続けると約束します。日本で博士号を取り、室崎さんがいつも冗談交じりで言うように、アルツハイマーの特効薬を発見できるような研究者になります。

最後にお願ひがあります。日本のロータリーの皆さん、どうか米山記念奨学事業をずっと続けてください。私のような学生に、チャンスを与えてください。この奨学金は、世界中の若者の人生を輝かせています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



### タイ米山学友会が創立5周年の総会を開催

タイ米山学友会の年次総会が3月18日、バンコク市内で開かれました。前国王の喪に当たり非公開での開催でしたが、学友21人とその家族、タイ国内と日本のロータリアンら総勢41人の親睦の集いとなりました。2012年の学友会創立を支援し、毎年の総会に欠かさず出席しているピチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長からは「皆の活動は間違いなく日タイの友好関係につながっています。米山梅吉翁の期待通りに社会貢献に励む姿に感心し、誇りに思います」との言葉が送られ、シュティカーン・テブサン会長は「今後も皆さまの励ましのもとに頑張っていきたい」と力強く語っていました。



決意も新たに創立5周年の総会を開催